



ウェルビーイング?

◆持続的な幸福状態／企業経営に導入進む

Q－最近、「Well-being（ウェルビーイング）」という言葉をよく目にするね。難しい英単語ではないけど、どういう意味なのか気になるな。

A－単純に訳すると「良い在り方／良い状態」となります。一般的には「幸福」という意味で使われますが、現在進行形の「ing」なので、一時的な幸福としての「ハピネス」ではなく、良い状態が“続く（続ける）”ことがポイントです。

Q－いつごろから使われている言葉なの？

A－16世紀のイタリア語が語源という説もあり、言葉そのものは世界保健機関（WHO）憲章にも載っています。日本でも昨年発表された国の「成長戦略実行計画」に盛り込まれており、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の目標の一つ「すべての人に健康と福祉を」の英訳は、「Good Health and Well-being」となっています。

Q－どういう場面で使われているの？

A－ウェルビーイングには「主観的ウェルビーイング」と「客観的ウェルビーイング」があります。世界中の企業では主観的ウェルビーイングが重要視されており、「優秀な人材の確保」「生産性の向上」「人的資本情報開示」につながるものとして積極的に推進されています。社員のウェルビーイングの向上が「顧客に対するウェルビーイング」向上につながり、結果として企業業績の向上につながるという考えです。日本でも、大手企業の中にはウェルビーイングを経営の中枢やコンセプトに取り入れ、推進専任の担当役員を置く会社もあります。

**主観的
ウェルビーイング**

「個人の幸福度」「従業員の幸福度」「人生の満足度」など。人によって感じ方が異なる

**客観的
ウェルビーイング**

主に、生活の豊かさなどを統計、社会的指標によって測る場合が多い。「1人当たりGDP」「平均寿命」などがある

※一般的に、日本では客観的ウェルビーイングは世界の中で上位に位置し、主観的ウェルビーイングは下位のものが目立つ

Q－県内の取り組みは？

A－富山県では、昨年2月の県成長戦略会議で、主観的な幸福度を重視した「真の幸せ（ウェルビーイング）」を目指すことを掲げました。それを受け、今年4月に「ウェルビーイング推進課」を新設しました。今後、県民に対してニーズ調査を行い、「何が充実することが幸福と感ずるのか」を調べ、その指標の数値を改善する政策を検討していくようです。

（北陸経済研究所の米屋信弘が解説しました。）